◆図書館スタッフのオススメ本を紹介します

女性が仕事をしながら家事・育児・趣味・勉強…全てを充実させる新しい働き方＝「ウーマノミクス」について、具体的に知ることのできる一冊。

『ウーマノミクス：仕事も家庭もあきらめない新しい「働き方」のカタチ：womenomics : work less, achieve more, live better』
クレア・シップマン, キャティー・ケイ 著；林久実 訳
星雲社

159 SH ［本館］

映画の中の何気ない法学的要素をわかりやすく解説したテキスト。どのような社会現象や法律にかかわるものか読み解いていきます。

『新・シネマで法学』
野田進，松井茂記 編
有斐閣

320.4 NO ［分館］

企業の「視点」パーフェクトガイド！
あらゆる企業が注目する「５つの基準」を網羅しているから、この１冊で「やるべきこと」がすべてわかる。

『新卒採用基準：面接官はここを見ている』
廣瀬泰幸 著
東洋経済新報社

377.9 HI ［本館・分館］

教職を目指す人のための入門テキスト。すべての教師が備えるべき基本的な知識と心構えをこの１冊に。

『はじめての特別支援教育：教職を目指す大学生のために』
拓植雅義［ほか］編
有斐閣

378 TSU ［本館・分館］

絵本『からすのパンやさん』や『だるまちゃんとてんぐちゃん』シリーズで知られる著者が、その生い立ちや絵本作家になった経緯、子どもたちとの出会いなどを語っている本です。

『未来のだるまちゃんへ』
かこさとし 著
文藝春秋

726.5 KA ［本館］

「政治・経済・歴史・社会編」と「生活・文化・伝統・観光編」があります。日英対訳、CD付きです。

『デイビッドセインの日本紹介：FAQ JAPAN』
デイビッド・セイン 著；村松静枝 訳
IBCパブリッシング

837.7 TH ［本館］

著者が専業作家となる以前に埼玉の屠殺場で働いていた10年半の日々を淡々と綴ったエッセイ。なぜこのような仕事を続けることが出来たのか？文章からは「働くこと」の実感と悦びが力強く伝わってきます。

『牛を屠（ほふ）る』
佐川光晴 著
双葉社

916 SA ［本館］

すぐに読み終えてしまう絵本だが、内容はおとな向け。ちいさな王様の問いかけの深遠さに、おとなに成ることの意味について考えさせられる一冊である。

『ちいさなちいさな王様』
アクセル・ハッケ 作；ミヒャエル・ゾーヴァ 絵
那須田淳，木本栄 共訳
講談社

943 HA ［本館］

ささやき

2015年７月から館内での飲食のルールが変更となりました。暑い最中、図書館を利用する皆さんにとって、もっと有意義な環境となるように…との思いから実施しました。掲示板に詳細な館内ルールを掲示していますので、入館前に確認してから利用してください。

平成27年10月25日　発行
編　　集　図書館だより編集委員会
発　　行　白鷗大学総合図書館
〒323-8585　栃木県小山市大行寺1117
ホームページ　http://hakuoh.jp/library/index.html
印　　刷　㈱尚文堂印刷所

図書館だより
HAKUOH
第46号 2015. 10
白　鷗　大　学

図書館は、人生の宝箱!?

― 図書館の多目的活用を ―

教育学部教授
小　泉　祥　一

４月に本学に着任するまで、1970年代半ばから九州博多の大学を皮切りに、長崎、高知、仙台の各大学で仕事を続けてきたが、その間、研究室の椅子を温めることもなく、いつもふらふらと出歩き、その地域の学校や教育委員会などに足を運び、教師たちと話し込む毎日で過ぎた。

そのため私に代わって、収集した研究資料や書籍が「研究室の主人」として、いつも所狭しとばかり大きな顔をしてデンと居座っていた。デンと居座る資料たちのおかげで、東日本大震災の時も本棚が壊れず助かった。「研究室は図書館・資料室」というと聞こえはいいが、図書館や資料室が図書や研究資料を整理し、きちんと管理されている部屋を言うのだとすれば、それとは程遠く、まるで「資料置き場」と化している。そんなことにはお構いなく、「行動派」というより、現場や事実を確かめないと気が済まない私は、落ち着くことなく現場と研究室の間を行き来するのだった。

このような私には、大学の（文化的）象徴であり、学問研究の拠点としての図書館にはおよそ縁がなく、近寄ることもほとんどなかった。

しかし、そんな私でも、多少なりとも図書館を利用し、本を探したり、読んだりしたことがある。卒論時代の大学４年の時だ。今から40年以上前、1970年代初頭の大学紛争直後、時代はまだ騒然としていたが、図書館での厳粛な出会いは、私に人生の宝物をもたらした。

人間性や人格という教育学にとって中心となる概念や理論に関する分厚い書籍を読んだのだ。それは、当時の学友が教育学専攻共通の学習として必要と思い、採り上げたのである。決して私が自分の人間性や人格に問題を感じるという謙虚な自覚からではなかった。

その時、私の勉強不足にいち早く気づき、同情しサポートしてくれる親切な学友がひとりいた。立て看やマイクによるアジテーションの嵐の中、静寂の図書館でその学友からいろいろ小声で教えてもらい、会話を交わしたことであった。こちらも教えてもらうだけでは、申し訳ないので、一生懸命調べた。しかし、とてもかなわないことをすぐに悟った。後でわかったことだが、その学友は、小・中学校時代には、学級文庫はもちろん学校図書館の所蔵本をすべて読みつくし、さらに先生方からも借りていたという。既に義務教育段階で

「作文の〇〇さん」としてその県内では名の通った生徒になっていた。大学に入学する頃には、戦後教育の高校三原則などへの問題意識をしっかり持った、私とは大違いのいわゆる上質の学生だった。逆に本人は図書や図書館の愛好者ということにコンプレックスを持っていたという。もちろん当時はそんなことは知らなかった。知っていたら、もっと圧倒され、きっと距離を置いていただろう。学友はのちに日本でも有名な詩人として活躍している。

私は、いくつもの図書館を飲み込んだその学友を幸運にもその後も独り占めし、大学図書館から人生の宝物を受け取った。その学友は、伴侶という人生の図書館として今も私のそばにいる。

学生の皆さん、読書に励みましょう

法学部教授
池　村　好　道

卑近なところから始めます。大学に入学したての頃、体育実技の科目登録に出遅れ、残っていた種目はボクシングとサーキット・トレーニングのみ。ヘッド・ギアをみ、恐怖に戦いて早々に前者を避け、結果後者を選択したはよいが、その何たるかを全く知らず。１回目の授業時に、単なる体力測定と思い、ダンベルや懸垂に目一杯取り組み、不覚にも周りを何という体力のなさと見下す。しかし、２回目以降は自己の「測定」結果を２（or ３）回繰り返す羽目に。終了はいつもびり。それよりなにより、疲れのため２時限以降は出席せず即座に帰宅。因みに２時限の授業科目は「法学」でした。今では偉そうに「行政法」を講じていますが。とまれ「サーキット・トレーニング」の意味を知らないが故の失態だった訳です。

矢張り、物事を知ることは力を得ることの源泉にして、旧約聖書以来の「知は力」は至言です。私の専門分野でも、実はこの考え方を基礎に情報公開制度が構築されていたりします。尤も、「知らぬが仏」にも一理ありますが。

更に、知識偏重ではなく、「知」に我々の生活を豊かにしてくれることや人間力涵養の効果をも期待するならば、「知は力」を実践しようとする上で最も有力な手段は、読書に外なりません。書物は知識の宝庫であり、様々に擬似体験、デジャヴの世界へと誘ってもくれるからです。比較的に時間的余裕のある大学生時代は、読書に溺れる位であってほしいものです。

一つだけ読書の際の要諦と思しきことを付言します。古典的名著といわれるものにも是非手を伸ばしましょう。例えば「万人対万人の闘争」で知られるホッブスの「リヴァイアサン」（1651）は、君主制礼讃の書とも評されますが、君主制が理論的に半ば克服された今日にあっても、人間性の把握を基礎にして政治理論を構築せんとするアプローチの意義などに鑑みるとき、決して過去の書物と片付ける訳にはいかないのです。抑々古典的名著といわれる書物は、必ずや刮目に値するものを包蔵するが故にそう呼ばれるのです。かび臭いなどといわずに大いに古典的名著に親しみましょう。

読書に際して心掛けるべき他の事柄については、紙幅から他日を期すことにします。

館内での飲食物のルールは守れていますか？

ルールを守り、共有空間を気持ちよく利用しましょう。